

解答例

1 15

母親は皆、子供にとっては普通ではない。いつも世界と同じように美しく、混乱させる存在で、記念碑的である。子供が大人になるときにはじめて親は普通になる—つまり、人間になる。大人になるという作業の一部は、自分が見ていた両親の像と彼らが実際どんな人であるかをどのように一致させるかを理解していくことである。

2 15

- (1) 私たちは気候変化について語るときに語っているのは、私たちは何がやってくるかを予測して制御することができないということ、同じ川に二度足を踏み入れることはできないということである。
- (2) 川の支流は私たちに、～かもしれない、～だろう、～はずだというようなことを提示する。

3 45

1 3×4 (1-1)2 (1-2)1 (1-3)2 (1-4)3

2 8

私たちは、やめておいたほうがいいだろうと知りながら、ストロベリーチーズケーキのデザートに惹かれるときに、同様の内的葛藤を経験する。

3 10

迷信について考えるとき、私たちの直感的な気持ちはしばしば迷信に従いたいと考えるが、私たちの理性的な側面は直感を正し魔術的思考を拒否するよう私たちを動かす。

4 15 (5×3) 下線直後の同格部分だけ (and two that do not まで) では少しだけ部分点。迷信を信じていない合理主義者で迷信的な直感を感じない人。人には喧伝しないかもしれないが迷信を完全に信じている人。合理主義者と完全に信じているひとの中間に位置して、魔法は存在しないと理解しているものの迷信を多少は気にする人。

4 25

Books are like a window into another world. Some I like, some I don't like. Since childhood, I have been a relatively avid reader. I would often frequent my school library and the locally run (government) libraries. They are a place of peace. The books themselves, I tend to enjoy reading fantasy or science fiction, but I also thoroughly enjoy non-fiction books. I have many books at home, and many I have not yet read, but I dip into on occasion. Non-fiction books

are great for finding information, or a nice turn of phrase, whereas, fiction is like going to watch a movie but the pictures are in my head and they will be different to the pictures of another reader of the same book. In short, books are something I cannot live without. A world without books would be a sad one indeed.144 words